

第3回 統合産婦人科学研究合同シンポジウム

「東北がんプロフェッショナル養成推進プラン」共催

日時：平成25年2月5日（火）18:00～

場所：臨床試験推進センター（TRセンター）3階 Abukuma

〈第1部〉 シンポジスト（各15分）

演題1 千葉 初音

「乏精子症精子とゲノムインプリンティング」

演題2 末永 香緒里

「血管作動性因子Vasohibinがマウスの胎盤構築および妊娠にあたる影響」

演題3 西本 光男

「子宮内膜癌におけるSteroid sulfatase阻害剤の有用性に関する検討」

〈第2部〉 特別講演（18:45-19:30）

信州大学医学部医学科免疫制御学 林 琢磨 先生

「老化監視：子宮間葉系腫瘍“平滑筋肉腫”に対する自己防衛機構」

がん遺伝子の異常な活性化が起こると、正常細胞は細胞老化プログラムに入って安定的に細胞周期が停止した状態をとることがあり、これは *in vivo* で腫瘍発生を阻む重要な障壁になる。今回我々は、子宮間葉系腫瘍である平滑筋肉腫で、抗腫瘍因子により老化が誘発されることを *in vitro* と臨床検体で明らかにした。こうした老化腫瘍細胞はアポトーシスへ移行しながらケモ/サイトカインを分泌し、免疫系による「老化監視」により除去される。本講演では、抗腫瘍因子誘導性老化及び老化監視が生体内腫瘍排除機構において重要な要因であること解説する。

連絡先：有馬隆博

TEL：022-717-7844

Mail：tarima@med.tohoku.ac.jp